【愛媛県】

愛媛県立松山北高等学校

NPO団体松山北高校興居島ボランティアチーム

高校生ボランティア・アワード2023

「環境保全プロジェクト」

先輩方と興居島島民との“つながり”がこの活動の原点です。
島民の声からこの清掃活動が始まりました。

これまで清掃活動を実施したのは、

興居島　釣島　二神島　野忽那島　睦月島　中島

これまで海岸状況調査で訪問したのは、

津和地島　怒和島　安居島

忽那諸島のすべての島を訪問し、島の現状を知りました。
島の方の声が、島の課題を考えるきっかけになりました。

これまで拾ってきたゴミは、
ペットボトル　発泡スチロール　プラスチック
かき棒　ビン　カン　蛍光灯・電球 etc.

1回の清掃は、
約20～30人 3時間～1日 ごみ袋80袋分の回収

コロナ禍でも、
島民や関係機関との連携　イベントでの地域への啓発
子どもたちとの楽しみながらの環境学習

「拾う活動」「減らす活動」を柱に
忽那諸島全体の環境保全に取り組んでいます！

「海ごみのない世界のために」

海ごみゼロ宣言
～海ごみをゼロにするために～

ー 海岸のすべてのごみが無くなるまで拾う
ー 拾うだけでなく、現状を発信する
ー 啓発活動を積極的に行い、一人ひとりの意識を変える

島嶼部の過疎・高齢化、人手不足
⇩
高校生・島民・行政・企業一丸で“地域”を守りたい

私たちの活動はSDGsと密接に関わっています。14番の「海の豊かさを守ろう」だけでなく、4番、11番、12番、17番も啓発活動やごみの処分方法、産官学の協働によって、目標達成に貢献できると考えています。

「日本一海ごみを拾う高校生」

2020年度	2021年度	2022年度
12回 817袋	13回1,117袋	10回 653袋

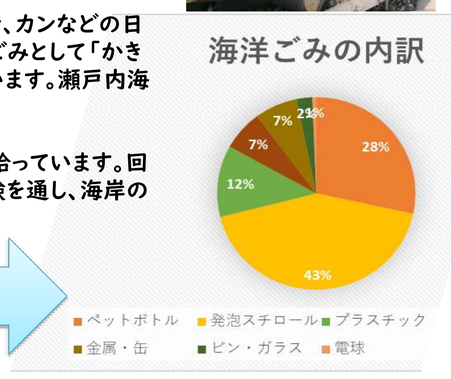
清掃回数	35回
累計ごみ袋数	2,587袋
参加者数	803名
回収ごみ総重量	110トン

私たちは3年間で35回の海岸清掃を実施し、45Lゴミ袋で約2,500袋を回収してきました。重量にすると110トンと非常に大きな数になります。この数字は私たちが日本一海ごみを拾っていると自負できる由縁です。
私たちのフィールドは忽那諸島です。船での移動が必須のため、「愛媛県三浦保愛基金」を活用してます。活動時期も限られるため、時期や海岸状況調査を通して清掃場所を決定し、より効果的で継続性のある活動を実施してます。コロナ禍でも島民との連絡を密にし、時に炎天下の砂浜や藪の中、テトラポットの隙間など、忽那諸島の海岸のいたるところで海岸清掃をしてきました。

その結果わかってきたことがあります。時期や場所によってごみの数が大きく変化することです。私たちが最も清掃する国木海岸は、興居島の中で一番ごみが漂着します。1回の清掃で217袋回収したこともあります。観察を継続することで、それぞれの海岸でプラスチックが多かったり、金属類が多かったりなど、ごみの分布もわかってきました。この情報を基に効率的な活動にすることができています。

私たちが活動で拾うものはペットボトルや発泡スチロール、ビン、カンなどの日常生活で排出されるものがほとんどです。そんな中で特徴的なごみとして「かき棒」があります。かき棒は広島県名産のかきの養殖に使われています。瀬戸内海を通して多くのかき棒が忽那諸島流れてきているのです。

私たちは啓発活動の際に楽しんでもらえるようにシーグラスを拾っています。回収したシーグラスを使い、小学生向けのフォトフレームを作る体験を通し、海岸の現状を伝える学習活動を実施しています。



全体の7割が発泡スチロール、
ペットボトルといった
プラスチック製品

▶ コンソーシアム

清掃活動を行う際の交通費などは三浦保愛基金、ごみ袋の提供や処分は松山市清掃課や地元企業、島からのごみの運搬は船舶会社、啓発活動では松山市環境モデル都市推進課など、一つの問題でも企業や行政など多くの機関がかかわっています。この活動を通してつながりの輪を広げることの重要性を学び、貴重な経験ができていると感じています。

愛媛県「三浦保」愛基金
ごごしま（株式会社ごごしま）
NAKAJIMA（中島汽船株式会社）
松山市 Matsuyama City 清掃課 環境モデル都市推進課
JOTO（城東開発株式会社）

▶ メディアからの取材

私たちの活動を地元のメディアである愛媛新聞やあいテレビ、FM愛媛などに取り上げて頂き、私たちの活動をさらに広げることができています。
私たちの活動を知ってもらうことで海ごみ問題に興味を持つ人が増えてほしいです。

FM愛媛・あいテレビ・愛媛新聞など

▶ 継続した活動によって

これまでの活動を評価していただき「愛媛県海岸漂流物対策推進団体」への指定を受け、「三浦保環境賞」愛媛県知事賞を受賞しました。
課題の解決や魅力の発信に取り組むことで、主権者としての自覚や将来について考えるよい機会も得られていると感じています。

「愛媛県海岸漂流物対策活動推進団体」認定

「三浦保環境賞」愛媛県奨励賞受賞

離島の海ごみの約9割は本土から流出したもの。川を通じて海に流れ出たプラスチック類は分解されず、美しい島に溜まり続けています。

「継続と実効性」

地域（産）、行政（官）、高校生（学）が連携し、活動の輪を拡大していきます！

【継続性】
私たちはコロナ禍でも3年間で35回の海岸清掃を行ってきました。しかし、私たちがいくら拾っても海ゴミは流れてきます。海ごみゼロの海岸を目指すためには、一過性ではない継続的な海岸清掃が必須です。
引き続き、これからも粘り強く清掃、調査を行っていきます。

【展望】
現在、多くの関係機関に支えられながら松山北高生を中心に活動しています。今後は一般の参加者や小中学生など、幅広い世代に拡大し、さらに大きな啓発効果を生みたいと考えています。また、地域の方や行政機関だけでなく、企業との連携も始まりました。より活発な活動を行えるよう、この活動の輪を広げ、地域一丸となって環境保全に取り組んでいきます。

【課題】
回収したごみは、松山市清掃課に処分を依頼しています。しかし、袋に入らないごみや産業廃棄物は処分できていませんでした。そのままにしておくと大量のマイクロプラスチックになる発泡スチロールフロートも処分できないため、再び海に流れないように固定しておくことしかできませんでした。
この課題を解決するため、令和4年度から城東開発に回収と処分を委託しました。4回の処分を実施しましたが、処分料を合計すると25万円以上になり、ごみの処分には多くの費用が掛かることを痛感しました。ただ、まったく回収しないのは海ごみを増やす原因になってしまいます。城東開発や島の人と連携して、計画的に実施していくことがこれからの課題です。

集合写真

松山市 野志克仁 市長

活動団体プロフィール

平成28年 興居島での「主権者教育」開始
平成30年 NPO団体設立
　西日本豪雨の復興ボランティア実施
令和2年 愛媛県三浦保愛基金の活用開始
　エシカル甲子園2020『奨励賞』
令和3年 忽那諸島へ活動拡大
令和4年 「愛媛県海岸漂流物対策活動推進団体」認定
　全国ユース環境活動発表四国大会『先生が選ぶ特別賞』
　きらめき松山市民賞受賞
　三浦保環境賞『愛媛県知事賞』

MATSUKITA.GOGOSHIMAVT
松北 興居島

海岸清掃だけでなく愛媛県内外の環境保全に関わるイベントでの啓発活動や島での行事のお手伝いなどを行っています。